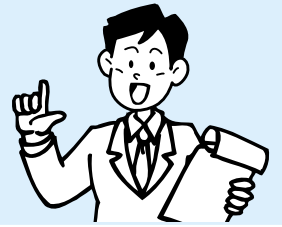


市町村合併を考える



通勤・通学圏

通勤圏をみると、鳥取市での勤務が多く、その割合は若美郡では四〇・七%、八頭郡では二九・五%、気高郡では二八・六%となっています。通学圏についても、多くの高校などがある鳥取市へ通学しています。

生活圏(買物・医療)

購買行動をみると、鳥取市が

周辺町村から入院・通院が多

転入・転出の状況を市郡別に

転入・転出

交通や情報通信手段の発達にともない、通勤・通学や買い物・医療など、住民の日常生活活動は既存の市町村行政区域を越えています。このため、市町村はより広域的な観点から効率的なまちづくりを行うことが求められており、このことは、市町村合併の必要性のひとつにも

あげられています。鳥取県東部十五市町村は、因幡の国として古くから、政治・経済・文化などあらゆる面において密接なつながりを持ちながら一体的に発展してきました。今回は、本地域の生活圏の一体性について紹介します。

広がる住民の日常生活圏

く、地域医療の核都市としての役割を果たしており、公私立病院を有する町村は、近隣町村の日常医療機能を担っています。みると、鳥取市では約五割が東部町村への転出となっています。一方、若美郡では約七割、八頭郡では約六割、気高郡では約五割が鳥取市への転出となっており、人口移動の面からも東部圏の一体性がうかがえます。

